

「うつのみや学校マネジメントシステム」学校評価書（小学校版）

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

- (1) 基本目標
人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
 - よく考える子ども（自ら学び考える行動力の育成）
 - 思いやりのある子ども（豊かな人間性の育成）
 - 体力のある子ども（心身ともに健やかな身体の育成）
 - はたらく子ども（社会で生きて働く力の育成）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子どもたちが心身ともに健やかに育つことをめざし、学校・保護者・地域が協同して、生き生きとした活気あふれる学校づくりに努める。そのため、人間尊重の精神を基盤とし、家庭・地域の教育力の活用を図りながら、高い指導力を備えた教師による豊かな教育活動を展開し、子どもたちの人間力を豊かに育成する。

※人間力：社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

3 学校経営の方針（中期的視点）

- (1) 学習指導の充実
生きる力としての確かな学力を身に付け、その基礎学力を実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。
- (2) 豊かな心の育成
思いやりの心を高め、自他の生命を尊重する心など豊かな心を育む。
- (3) 心身ともに健やかな身体の育成
健康で安全に生活できる能力を身に付け、気力や体力をはぐくむ教育活動の充実を図る。
- (4) 人間力の育成
社会的自立の基礎を培うことが基盤となる「生きる力」の実現に向けて、社会で生きて働く実践力・行動力を育成する。
- (5) 信頼される開かれた学校づくりの推進
子どもは地域の中で育むという視点を持ち、学校、家庭、地域、及び産業等との連携、協働を図りながら信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- (6) 特別支援教育の充実
一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育の推進に努める。
- (7) 教師力の向上
教職員として使命感や誇りをもち、自己研鑽に励み、協働しながら教師集団の総合的な指導力を高め教師力の向上に努める。
- (8) 危機管理・環境整備の充実
子どもが安心して安全に過ごせるとともに、潤いのある学校環境の整備に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

- (1) 学校運営
「明るく活気のある雰囲気の中で、子どもが生き生きと学習・活動する学校づくり」
 - － 明るく、楽しい、活気に満ちた学校 －
- (2) 児童生徒指導
「互いのよさを認め、豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成」
 - － あいさつ運動、読書活動の推進を基盤として －
- (3) 健康・体力
「自らの健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成」
 - － プチトレーニングの取組を通して －
- (4) 学習指導
「基礎・基本の定着を図り、主体的に学習に取り組む児童の育成」
 - － 「学び合う」学級・集団を基盤として －

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定回答90%以上	① いじめの早期発見、早期解決のため、4月、9月、1月に学校生活アンケートを継続して実施する。 ② 5月のいじめゼロ週間や11月の人権週間において、児童に標語を作成させ掲示するなど、相手を思いやる気持ちを育てる取組を推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定回答91.3%は前年度を0.3%上回り、数値指標90%以上を達成した。 別途いじめのアンケート調査では、いじめの認知件数は0件であった。病気以外の理由で30日以上欠席した児童はほとんどみられなかった。あいさつ運動は、計画委員会を中心に行い、参加を希望する他の児童もボランティアとして参加した。「いじめゼロ強調月間」では、委員会が中心となっていじめ防止の内容の劇をビデオに収め校内で放送し、いじめ防止の啓発活動を行った。 また、今年度後半より月1回若松原中学校から生徒会の生徒が来校して朝のあいさつ運動に参加し、あいさつの交流を図った。 【次年度の方針】 ① いじめの早期発見、早期解決のため、4月、9月、1月に学校生活アンケートを継続して実施する。 ② 相手を思いやる気持ちを育てる取り組みの推進のため、5月のいじめゼロ強調月間に、児童が標語を作成・掲示したり、11月の人権週間やいじめゼロ強調月間で全校集会を行ったりする。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】① 全体アンケートの「先生方は、児童のことを考え、良いところを認めてくれたり、よく話を聞いてくれたりする」 ⇒児童の肯定回答90%以上 【数値指標】② 全体アンケートの「教職員は協力し、教えるべきことをしっかりと熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定回答80%以上	① 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。 ② 漢字や計算の定着を図るため、朝の学習の時間に、漢字や計算のプリント学習を実施すると共に、間違い直しを徹底させる。		【達成状況】 ① 児童の肯定回答は95%で数値指標は達成された。年2回実施した教育相談週間では、児童と担任が1対1でじっくりと話をすることができ、児童理解が深められた。また、事前に行ったQJアンケートの結果などを活用しながら実施することができた。 ② 保護者の肯定回答は81.3%と数値指標は達成できたが、昨年度を1.8%下回った。なお、別途実施した漢字まとめテストで9割以上正解した児童の割合は82%であった。 【次年度の方針】 ① 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。 ② 朝の学習の時間には、国語や算数を中心にプリントやドリルを活用した繰り返し学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図りながら全校体制で取り組む。

A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定回答80%以上	① 基本的な学習態度や習慣を身に付けさせるため、毎週、生活目標を設定し、職員間での共通理解のもと、指導を徹底する。 ② きまりある生活態度を身に付けさせるため、長期と短期の生活目標を立て、定期的に振り返る場を設定する。	【達成状況】 児童の肯定回答は78.2%で、数値指標に及ばなかったが、昨年度の77.6%からは0.6%向上した。なお、保護者の肯定回答は81.3%と、児童の肯定回答を上回った。 【次年度の方針】 ① 教職員間で生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童に決まりやマナー、秩序を徹底指導していく。 ② 児童が自分の生活の様子を振り返る場や、決まりを守って生活している児童が賞賛される機会を設定する。
A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定回答90%以上	① きめ細かな指導を行うため、高学年で少人数指導等の指導を実施する。 ② 学力向上を図るため、さらに授業研究を重ね指導の工夫に取り組む。	【達成状況】 児童の肯定回答は94.3%で数値目標を達成した。 教員は、学級の枠を越え協力しながら授業の進め方等の研究をしたり、児童の伸びやつまづきを話し合ったりするなどして、指導の工夫に努めてきた。また、児童が使う作業用紙や練習プリントを教科や単元ごとにストックして活用を図ったり、効果的な掲示資料を作成したりするなどして、分かりやすい授業の実施に努めてきた。 【次年度の方針】 ① きめ細かな指導の充実を図るため、指導形態の工夫や少人数による指導等を、多くの学年・学級で実施する。 ② 学力向上を図るため、さらに授業研究を重ね指導の工夫改善に取り組む。
A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」 ⇒児童の肯定回答90%以上	協調性や思いやり、勤労意欲を養うため、農園活動、ボランティア活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を実施する。	【達成状況】 児童の肯定回答は89.5%と、わずかに数値指標に達しなかったが、昨年度からは1.1%向上した。また、保護者は94.5%、地域住民は93.3%と、いずれも昨年度を上回った。 ボランティア活動については、昨年度に引き続き縦割班で行ったことで、より充実した活動ができた。さらに、農園活動についても、ボランティアの方にお世話になったことで、実り多いものとなった。 【次年度の方針】 協調性や思いやり、勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を実施する。

学 校 運 営 の 状 況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定回答80%以上	学校の現状や取組についての理解を深めてもらうため、うつのみやオープンスクール等学校公開や授業公開を学期に2回以上実施する。	B 【達成状況】 保護者の肯定回答は97.7%と、数値指標を達成するとともに、昨年度を1.6%上回り、高評価を得られた。 【次年度の方針】 宇都宮オープンスクール等の学校公開や授業公開については、本年度と同様に年間4回実施する。また、学校の取り組みについてより理解を深めてもらうため、月に1度は保護者に関する行事等を実施する。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】① 全体アンケートの「本校の保護者は、学校の教育活動などに協力的である」 ⇒保護者の肯定回答80%以上 【数値指標】② 全体アンケートの「学校と、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定回答80%以上	① あいさつ、早寝・早起き、朝ごはんの習慣化を図るため、「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」を活用する。 ② 教育活動を充実させるため、地域教材や人材、学校支援ボランティアを生かした授業を学期に3回以上実施する。	B 【達成状況】 ① 保護者の肯定回答は82.2%と、数値指標を達成した。 なお、児童の生活習慣については、「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」などを通して身につけてきている様子がうかがえる。 ② 肯定回答が教職員、保護者、地域住民とも8割以上の評価が得られた。朝の読書ボランティアや英語ボランティアなど、各種の学校支援ボランティアを中心に地域人材を活用して教育的効果を上げられた。 【次年度の方針】 ① よりよい生活習慣の定着を目指し、特に長期休業中も家庭の協力を得られるよう「すくすくカレンダー」を活用した強化週間を設け、集中的に活用する。 ② 教育活動を充実させるため、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した授業を各学期で計画的に実施する。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすく潤いのある環境である」 ⇒保護者の肯定回答80%以上	清潔で整理整頓された教室環境作りのため、清掃強化日を7月、12月、3月に設定する。また、集会のある水曜日は、5分間清掃を行い、自教室や階段、トイレなど汚れの目立つ場所を清掃する。	A 【達成状況】 保護者の肯定回答は昨年度を1.4%上回ったものの、75.6%であり、数値指標に達しなかった。なお、教職員は87.5%、地域住民は86.6%、児童は88.8%であった。トイレの消臭対策を行ったり、教室や廊下の箒を児童がより使いやすい用具に漸次交換したりするなどして改善を図った成果と考える。 【次年度の方針】 ① 清掃の仕方や用具の使い方・後始末の仕方など、清掃指導について教職員の共通理解を深め、指導の徹底を図る。 ② 落ち着いた学校生活を過ごすとともに、学習に生きる環境を整備するため、校内環境の在り方について、児童の視点から再度検討し、学校環境の整備・充実を図る。

		A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒教職員の肯定回答80%以上	指導力の向上を図るため、外国語活動と学校課題をもとにした授業を年間でそれぞれ1回以上公開する。	B 【達成状況】 数値指標は上回ったものの、保護者の肯定回答は64.8%であった。 【次年度の方針】 今後とも指導力向上を図るため、学校課題をもとにした授業を全教員が年間1回以上公開し、授業研究を行う。また、学校の取組の情報発信に努めるため、学校だより等で積極的に取組を紹介する。
		B1 教職員は学校の研究課題（学び合い）に関する研究に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケートの「授業で、みんなと一緒にじっくりと考えながら勉強している。」 ⇒児童の肯定回答80%以上	学び合う学習についての校内研修の充実を図るとともに、全教員が「学び合い」を課題とした授業を年間1回以上公開する。	B 【達成状況】 児童の肯定回答は88.0%と、昨年度から約3%向上した。「クラスの友達と共に学び、積極的に学習に取り組んで頑張っている」と認識している児童が少しずつ増えてきている様子がうかがえる。 【次年度の方針】 授業で様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努める。また、保護者や地域住民へ、授業参観や学年だより等で子どもの学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努める。
	教育活動の状況	生 A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】① 全体アンケートの「児童は、あいさつをしている」 ⇒児童の肯定回答80%以上 【数値指標】② 全体アンケートの「児童は、きちんとした言葉づかいや返事をしている」 ⇒地域住民の肯定回答80%以上	① あいさつの習慣化を図るため、計画委員会によるあいさつ運動を各学期1回ずつ実施する。 ② 誰に対しても、あいさつや適切な言葉づかいができるよう、地域人材やボランティアの方々に対する、あいさつや、正しい言葉づかいについての指導を行う。	A 【達成状況】 数値指標①の肯定回答は86.4% 数値指標②の肯定回答は80%で、ともに数値指標を達成するとともに、昨年度を若干上回った。 【次年度の方針】 ① 児童会の計画委員会を主体とし、たすきを活用したあいさつ運動を継続的に行うとともに、集中的に指導を行う期間を定め、校内放送での意識付けを図る。また、若松原学校園としてさらに小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実させる。 ② 言葉遣いについては、日常的にその都度指導を繰り返す。家庭にも学年・学級懇談や学年だよりなどを通して協力を呼びかける。
		B2 望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している。 【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、学校でだれとでも協力して生活している」 ⇒児童の肯定回答90%以上	生命や人権を尊重する態度を育てるため、道徳の時間と学級活動、それぞれにおいて、学期に1回以上、生命や人権尊重、いじめ防止をテーマにした授業を実施する。また、学級の中でのよりよい人間関係の構築のために、各学期1回、Q-Uテストを実施する。さらに、縦割り活動の充実を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定回答は85.8%で、数値指標を4.2%下回った。 【次年度の方針】 継続して、生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、縦割り班による活動をさらに充実させる。また、お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感を高めたり、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図ったりするなど、指導の工夫に努める。

健康・体力	A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】① 全体アンケートの「自分の子どもは、朝ごはんを食べ、好き嫌がなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定回答80%以上 【数値指標】② 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」 ⇒児童の肯定回答80%以上	① 食に関する指導の充実を図るため、学級活動、保健体育・家庭科等の各教科、道徳の時間に食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して実施する。 ② 健康の保持増進を図るため、休み時間の外遊びを奨励する。	【達成状況】 数値指標①の肯定回答は83.4%、数値指標②の肯定回答は90.3%で、ともに数値指標を達成するとともに、昨年度を若干上回った。 【次年度の方針】 ① 「お弁当の日」や「校内給食週間」等の機会を捉えて、食に関する意識の向上を図るとともに、食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して実施していく。また、給食室と連携して、野菜の切り方を工夫するなど、楽しい給食作りを推進する。 ② 「プチトレ」の実施の時間や方法を工夫し継続的に実施するとともに、昼休み等の外遊びの奨励を行う。
	B3 進んで運動に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、鉄棒検定・なわとび検定表を使った練習や、「家トレ」などで、進んで体を動かしている。」 ⇒児童の肯定回答80%以上	運動意欲の向上を図るため、家庭で運動ができるように「5分間の家トレ」をカードにして紹介し、すすくカレンダーでチェックできるようにする。	【達成状況】 児童の肯定回答は77.5%で、数値指標を2.5%下回った。なお、「休み時間や放課後などに積極的に運動をしている」の項目では、児童の肯定回答が90.3%であった。 【次年度の方針】 「すすくカレンダー」の活用について家庭への周知の徹底を図るとともに、強化週間などを活用し、本校独自の「家トレ」の奨励を行う。
学習	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】① 全体アンケートの「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定回答80%以上 【数値指標】② 全体アンケートの「児童は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒保護者の肯定回答80%以上	① 一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、「学び合う」活動を取り入れた授業を展開する。 ② 基本的な学習態度や学習技能を身に付けさせるため、「基本的な学習のしつけ」を活用し、全校共通の取組を推進する。	【達成状況】 数値指標①の肯定回答は86%で、数値指標を達成した。数値指標②の肯定回答は72.7%で、昨年度を若干上回ったものの、数値指標を7.3%下回った。 【次年度の方針】 ① 今後も、一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、自分の考えをもち、互いの意見を聞き合い、考えを深め合うなどの「学び合う」活動を取り入れた授業を展開する。 ② 「基本的な学習のしつけ」に関しては、掲示物を作成して児童への意識付けを図る。 個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たる。 また、各学期始め・長期休業終了時に、各教室に学習態度等に関する重点目標を掲示するなどして、集中して指導を行う。

本校の特色・課題等	B4 家庭学習の習慣が身についている。	家庭学習の習慣化を図るため、自分に合った家庭学習の時間と内容を設定させる。	【達成状況】 児童の肯定回答は73.3%と、数値指標を6.7%下回った。
	【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、宿題も含めた家庭学習を目標の時間（低学年20分間以上、中学年40分間以上、高学年60分間以上）以上やっている。」 ⇒児童の割合80%以上		【次年度の方針】 継続して「すすくカレンダー」のより効果的な活用に努める。 また、3年生以上については、自主学習の仕方がより具体的に分かるような「自主学習をしよう！」カードを作成し、学習意欲の向上に努める。「すすく子育てプラン」のPRを継続して行うなどして、家庭と連携した家庭学習の習慣化に努める。
	B5 教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる。	あいさつの習慣化を図るため、年2回、あいさつ強化週間を設け、地域ぐるみのあいさつ運動を実施する。	【達成状況】 保護者の肯定回答は73.6%であり、昨年度より4.2%向上したが、数値指標の80%には達しなかった。 今年度は、計画委員会を中心にボランティアを募り、低学年から高学年までの児童が主体的に取り組んだ。また、小中連携の一環として、若松原中学校の生徒が来校し、あいさつの輪を広げる活動を行った。
	【数値指標】 学校独自アンケートの「教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定回答80%以上		【次年度の方針】 引き続き、交通指導員さんや下校ボランティアの方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続するとともに、校内の掲示物や授業参観後の懇談会やたより等であいさつに取り組む様子を保護者に知らせ、理解を得られるよう努める。
	B6 教職員は、体力テストの結果をふまえて、児童の体力向上を図っている。	体力の向上を図るため、「プチトレーニング」などを継続的に実施する。	【達成状況】 全国平均を上回った種目の割合は71.8%で、数値指標の80%には達しなかった。 1回目の54.1%からは大きく向上した様子が見られるが、20mシャトルランとソフトボール投げに関しては、全国平均を下回る学年が多い。特にソフトボール投げに関しては、4年生以上の男女が全国平均を下回っている。
	【数値指標】 2回目の体力テスト（ソフトボール投げ）の結果 ⇒全国平均を上回った児童数が全校の80%以上		【次年度の方針】 今後は、全身持久力・投力の向上に力を入れ、教科体育での補強運動を工夫してバランスよく体力をつける指導に努める。また、「プチトレ」の時間を確保して実施の充実を図るとともに、家庭の協力を得ながら「家トレ」を実施できるようにする。

B7 教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、読書や調べ学習などで月20冊以上本を読んでいる」 ⇒児童の割合90%以上	読書意欲の向上を図るため、読書や読み聞かせの時間を日課に位置づける。	【達成状況】 児童の肯定回答は73.8%であり、数値指標の90%には達しなかった。 なお、昨年度は71.4%、一昨年度は61.4%であり、肯定回答は近年増加傾向にある。 これは、「読書の時間」が日課に位置付けられていることに加えて、今年度から実施している「朝の図書館開放」によって、高学年児童が図書室を利用できる機会が増えたことが理由の一つであると考えられる。 また、読み聞かせボランティアの方々と親しむ機会が多かったことや司書によるブックトークの実施も、児童の読書意欲の向上に効果的であったと考えられる。 【次年度の方針】 朝に図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を確保し、読書の推進に努める。また、家庭での読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、多様なジャンルに親しませ、読書指導の充実を図る。
B8 教職員は外国語活動を充実させるための取組を推進している。 【数値指標】① 学校独自アンケートの「自分は、あいさつや簡単な会話、歌などの活動に楽しく取組んでいる」 ⇒児童の肯定回答80%以上 【数値指標】② 学校独自アンケートの「自分は、英語の学習が好きである」 ⇒児童の肯定回答80%以上	① 外国語活動の充実を図るため、朝の会の中に英語のあいさつや簡単な会話、歌を取り入れたり、昼の放送でチャンツを流したりするなど、英語に慣れ親しませる常時活動を行う。 ② 外国語活動の充実を図るため、年間高学年35時間、中学年18時間、低学年10時間の外国語活動の授業を実施する。	【達成状況】 数値指標①の肯定回答は82.3%で、数値指標は達成した。数値指標②の肯定回答は76.9%で、数値指標には達しなかった。 常時活動の他に、3年生以下で地域ボランティアの協力を得ながら授業の充実を図った。 【次年度の方針】 「会話科」の実施を受けて、学校だよりや学年だより、懇談会等で趣旨や取り組みについて保護者の理解を得られるよう努める。
B9 教職員は、児童の人間関係力向上を目指して、縦割り班活動を推進している。 【数値指標】① 学校独自アンケートの「縦割り班活動で、多くの友達と楽しく活動している」 ⇒児童の肯定回答80%以上	① 児童の人間関係力の向上を図るため、異学年集団からなる縦割り班により、児童の主体性を生かした各種活動を、年間を通して計画的に実施する。	【達成状況】 児童の肯定回答は90.4%と、数値目標を達成した。 縦割り班による遊び（わくわくタイム）や児童集会、なわとび大会など、縦割り班活動を、年間を通して計画的に実施してきた。今年度は特に、集団での活動を通して互いに認め合う場を意図的に設定したり、リーダーとなる6年生の育成の指導に努めたりした。 【次年度の方針】 リーダーである新6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。

〔総合的な評価〕

- 教育全体の状況については、おおむね数値指標を達成することができた。特に「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」については、全ての評価対象者から高評価が得られた。なお、「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」については、前年度からは向上したが、今後も継続的に努力することが必要であると考えられる。
- 学校運営の状況については、高い評価を得られた項目や、学校の研究課題に関する「授業で、みんなと一緒にじっくり考えながら勉強している」などのように肯定回答率を近年連続して向上させているものもある。ただし、評価項目によっては、評価対象者によって評価に違いが見られるため、情報の発信や取組の更なる充実に努める必要があるものと考えられる。また、「校内は、学習にふさわしい環境となっているか。」では、肯定回答率は近年連続して増加傾向ではあるが、数値指標に照らして、今後も継続して取り組む必要があるものと考えられる。
- 教育活動の状況のうち、生活面の「あいさつ」や健康体力面の「朝ごはん」については、数値指標を達成するとともに、肯定回答率を近年連続して向上させており、継続的な取組の成果がうかがえる。今後とも継続して取り組むことが必要であると考えられる。
- 教育活動の状況のうち、学習面の授業に関することについては、「授業への積極的な取組」では数値指標を達成するとともに肯定回答率も昨年度から若干向上したが、「落ち着いた学習」や「家庭学習」などでは、数値指標を達成することができなかった。今後、期間を定めて集中的に指導したり、児童への個別の支援が必要な場合は、各担当者間で連携して指導に当たったりするなど、工夫しながら継続的に取り組むことが必要である。
- 本校の特色・課題については、特に学校の研究課題に関わりのある「縦割り班活動」で、数値指標を達成するとともに昨年度からさらに肯定回答率が向上した。「読書」については、肯定回答率は近年連続して向上しているが、今後もさらに取組の充実に努めることが必要である。また、「家庭や地域と連携したあいさつ運動」や「体力向上」については、「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」を活用した指導の工夫改善を図るなどして、広く家庭等に理解を深めていただくよう努力する必要があると考えられる。

6 学校関係者評価

- 子どもは学校でのあいさつはよくできている。家庭や地域でも多くの大人が子どもに温かい声をかけるなどして、あいさつができる環境を大人が作ることが大切ではないか。
- 授業に関する児童の評価が高かったことはよかった。まずは授業が大切であろう。
- 今回の学校評価書では「体力テスト」と「読書」について高い数値結果は出ていないが、先日、学校の取組について説明を聞いて、学校の取組の工夫や努力が分かった。評価のためにも、保護者や地域住民は学校に来て、学校をよく知ることが大切であろう。
- 本校はモデル校として英語活動を積極的に取り組んできた。それ以外にも学校はいろいろな取組を行っている。これらの取組を積極的にPRしていくとよい。
- 子どもたちは少しずつ成長してきており、今後の成長が楽しみである。今後もよりよい指導をお願いしたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- あいさつや言葉遣いなど、基本的な生活習慣や望ましい生活態度の向上を図るため、児童主体のあいさつ運動の工夫や、適切な言葉遣いの指導の充実に、今後も継続して取り組む。
- 学習や学校生活によりよく取り組む意欲や態度を育成するため、「朝の学習」、「朝の会」、「帰りの会」についても内容等を検討し共通理解を深めて、さらなる指導の充実に図る。
- 清潔な雰囲気の中で学習に役立つ環境づくりに努めるため、階段など共用部分の清掃方法を今後も検討するなどして、校内の環境整備のさらなる充実に図る。
- 家庭との連携を深めた指導の充実のため、「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」の活用について、家庭への周知を徹底し理解を深めていただくとともに、強化週間を設定し集中的に指導するなど、効果的な指導の工夫に取り組む。